

多言語化する日本社会

— 理想と現実 —



現在日本では、外国人登録者数は現在215万人をこえ、
総人口の1.7%をしめるまでになりました。
それにともない、移民の言語活動の顕在化や外国人への多言語支援など、
さまざまな多言語化の現象があらわれています。
多言語化の10年をあらためてふり返りたいと思います。



2009年 6月20日(土) 9:45-18:00 (開場9:30)

国立民族学博物館 (大阪府吹田市万博記念公園)

研究発表 / 基調講演 / パネル討論 (プログラムは裏面をご覧ください)

定員 100名 (参加無料・事前登録必要・先着順)

参加登録・問い合わせ

氏名・所属・メールアドレスを多言語化現象研究会事務局まで。

<多言語化現象研究会事務局> tagengoka-gensyoo@idc.minpaku.ac.jp

6月18日締切

多言語化する日本社会

—理想と現実—

プログラム 総合司会：中野克彦

開会のあいさつ・趣旨説明 庄司博史 9:45-10:00

第1部 研究発表 10:00-12:30

第一会場 (第3セミナー室) 司会：山下 仁
 許之威 「地域日本語教育」とは何か—新たなパラダイムを目指した批判的考察」
 周 萍 「日本に永住する中国人の日本語学習動機に影響を与える要因の研究—地域の日本語教室をやめた学習者を通して—」
 札 埜 和 男 「法廷における方言」
 柳 田 亮 吾 「日本語の多様性とポライトネス—「円滑」なコミュニケーション再考—」
 脇坂真彩子 「Tandem Learningという新たな学習機会の提案—概要と事例研究から—」

第二会場 (第5セミナー室) 司会：オストハイダ・テヤ
 重松由美 「ブラジル人学校児童生徒による日本語借用」
 高藤三千代 「民族国民概念の拘束と日本でスペイン語を(再)継承すること—アイデンティティ・境界・想像—」
 金 春 男 「バイリンガルの認知症高齢者とのより有効なコミュニケーションの可能性—バイリンガル話者の特徴(Code-switching)に注目して—」
 宋 実 成 「在日朝鮮人の朝鮮語方言話者について—幼少期に渡日した1世と日本で生まれ育った2世の事例—」
 山川和彦 「滞在型観光地における多言語化研究の枠組み」
 山川智子 「"plurilingualism" 概念の日本における受容に関する一考察」

第2部 基調講演・パネルディスカッション

◎基調講演◎ 「多言語化研究の可能性」 庄司博史 14:00-14:40

◎パネルディスカッション◎ 「多言語化する日本社会—理想と現実—」 14:45-18:00
 〈進行：藤井幸之助〉

パネリスト

岡崎 眸 「グローバル化の下で変動する世界において—スーパーフード—持続可能な生き方を追求する共生日本語教育の役割」
 津田幸男 「日本の多言語化における英語支配の影響」
 石原 進 「なぜ、いま多文化情報なのか」
 金 美 善 「移民女性と言語問題」
 安田敏朗 「『多言語社会』という幻想」

閉 会 18:00



会場案内

- ◎民博の一般開館時間は10時ですが、大会参加者は9時半から10時まで担当者が入口で入場誘導します。
- ◎大阪モノレールで「万博記念公園駅」「公園東口」下車15分。
 ・万博記念公園駅からの場合、万博自然文化園(有料)を通過することになります。
 ・公園東口駅からは日本庭園前駐車場を経由して無料で来館できます。
- ◎参加者は大会案内のコピーを持参ください。
- ◎バスの場合は、近鉄バス(千里中央—阪大病院)「日本庭園前」(下車15分)、阪急バス(茨木—千里中央)「日本庭園中央」(下車5分、1時間に1本程度)が便利です。
- ◎自家用車の場合は、日本庭園前駐車場(5分)が有料で利用できます(1500円)。

